

しのばず自然観察会より 2025-3 2025.03.02

2025年3月の活動 不忍池 定点観察 3月16日(日)



集合:午前10時 不忍池 蓮池南西端
(野外ステージ西側、湯島天神下交差点
寄り)緑の小旗あり
今回は雨天中止
持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
(マスク、敷物、昼食、防寒衣)
解散は午後1時頃ボート池畔の予定
参加費不要 非会員の参加も歓迎

2025年4月の活動 不忍池定点観察は 4月6日(日)、

昨年に引き続き 谷中霊園ニリンソウ観察会を 4月13日(日)に予定します

2024年2月の活動 不忍池定点観察から

2月16日(日)は曇天でしたが連日の寒波が緩み、ぽかぽか陽気になりました。朝方、雲が厚かったせいか、参加者は6名でした。蓮池の枯蓮刈りがほぼ終了し、岸から数十mは水面が広がりましたが、カルガモ2羽が岸にいただけで他のカモの雰囲気がありません。少数のダイサギ、アオサギ、ユリカモメが見られるだけ。カエル島あたりで、ゴイサギ、カワウなどが定位置にいて、やっと不忍池らしさが戻ってきた感じでした。この日、カワウのコロニーは静かで、鳥の姿もまばら。ヒナたちは巣立ちして採餌に出かけたのでしょうか。

ボート池と動物園池を隔てる園路に差し掛かった時、眼前の木立からハトくらいの大きさの鳥が勢いよく飛び出して、一直線に飛び、メタセコイアのとっぺんに止まりました。キジバトか、ワシ・タカかと目を凝らすと、どうやら猛禽類のようです。後ろ姿しか見えないため、顔付きやおなかの模様がわからないので識別が難しいのですが、背の色



チョウゲンボウ?

が褐色なので、チョウゲンボウの可能性が考えられます。1月の上空のトビ、12月の千駄木ふれあいの杜にいたツミと、不忍池の辺りの今冬は猛禽(ワシ・タカ・鷲・鷹)づいています。

ボート池の北端にキンクロハジロとホシハジロ、南端にオナガガモがいて、ほっとしました。ハンの木の雄花の房が膨らみ、オオイヌノフグリの青い花とコゴメイヌノフグリの白い花が並んで咲き始めていました。

確認した野鳥:ドバト、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、シジュウカラ、メジロ、ツグミ、ハシブトガラス、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ、オオバン、ユリカモメ、チョウゲンボウ? オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ハクセキレイ

開花植物:ノゲシ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、コゴメイヌノフグリ、スイセン、園芸種カタバミ(濃紅色花および白色花のオキザリス)、ウメの品種、カワズザクラ、サザンカ

2025年2月16日の観察会から 小川千恵子

晴、最高気温予報 16度

9:35

目の前のボート池の端の土の上をムクドリ1羽が地面をつつきながら歩く。周りにはドバト15羽とユリカモメ1羽もいる。オオバンの鳴き声がきこえる。ハンノキはオバナがたくさん下がる。下には花がついた水仙の大きな株。

ボート池水面、キンクロハジロは1月に比べて少ない。ユリカモメも少ない。北西の小さな囲いの中の水中にコンクリート製の台がふたつ沈んでいて、片方にオオバンが立つ。まるで水中に立っているかのように見える。北の陸地には薄茶の枯れ葉が広がる地面に、花がついた水仙の株、葉だけが伸びた水仙の株がいくつもある。

ひっくり返したボートの上にユリカモメ13羽、くいの上に2羽。ホシハジロ雌1羽雄3羽が、いかだのところにいる。

キンクロハジロは全部で87羽。内、雌は9羽。ホシハジロ雌1羽、雄1羽がいる。計雌2羽、雄4羽。オナガガモ1羽、水面に。浮き鉢の中にカルガモ1羽が眠る。

動物園の方向からサルノケンの鳴き声が響く。アキニレに薄茶色の実がぶら下がる。

戻って、ハンノキの南のサクラの下に、オオバン2羽が土をつついて何かを食べている。

ガンジンの東の水の中の台の上にコサギ。足先は見えないが、胸と背のフワフワした毛でコサギと判断。すぐそばの陸地にはアオサギが一本脚で立つ。頭の後の濃い青い冠毛がピンと伸びて、羽づくろいで揺れて美しい。

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

2024年以前の会費未納の方も忘れなく! 退会の場合は早めに葉書で事務局へ

池の囲いの手すりの内側の地面には緑の葉がいろいろ出始めている。オオバン 4 羽が北へ泳ぐ。

桜カンザンのそばの池の鉢にコサギ。頭の後の長い羽が伸びていて、胸も背もふわふわの羽で、美しい。

手すりが丸くせりだした所のベンチ前には水仙が咲く。水の中の鉢にオオバンがいて、鳴いては羽づくろいをくり返す。

オナガガモが陸地に上がっていて、少し斜面になったところの一番低い池側に沿って点在して眠る。雌 9 羽、雄 20 羽。

オオイヌノフグリが一群、咲いている。

ボート池南端には、オオバン 1 羽、ユリカモメ 7 羽。



アオサギ

集合地

スズメ、ドバトが群れて、地面をつつく。カンナは下に緑の葉が見えるが、上は真茶色のかたまり状態。カンナの植え込みの中に、下から菊の緑の葉が出てきている。水仙の長い葉が多数伸びている。園芸種のカタバミの大きい葉も見える。

蓮池は池端から15～20mの蓮は刈られて、水面が見える。陸地には刈られた蓮が少し残っている。カルガモ 2 羽。他の水鳥は見られない。

野外音楽堂では若い女の子達の歌声とその間に男の子達のかけ声が大音量で流れる。サザンカがピンクの花を咲かせている。キョウチクトウの葉は緑。弁天堂方向を見ると、蓮の茶色の棒のような葉柄の中にダイサギが首を伸ばして立っている。

浮き橋の手すりにアオサギが北を向いて止まる。観光客が写真を撮ろうと近づくと、さっと飛び立ち、岸辺の水際へ。

水面をのぞきこむと、水は比較的透明で、底(?)まで見える。ヘドロか藻か、フワツとした灰色の物が見え、折れた蓮の葉柄らしき物まで見える。なんとなく浅く見える。MIさんが「水が少ないのかしら?」と。池端を見ると、いつもの通りで、特に水面が下がっているわけではない。

浮き橋から北を見ると、手前は水面、その向こうの茶色の蓮の棒のような葉柄群。その向こうに薄茶色のアシ群が見える。

下町風俗資料館前から、北へ向かうと河津桜が 3 本ある。1 本目と 3 本目はまだ蕾の先っぽが赤くはなっていないが、2 本目は蕾がふくらんで先っぽが濃いピンクになっている。もうすぐ咲きそうと思ってよく見ると、所々に計 5 輪咲いていた。大漁桜は蕾の先が赤くなっているのと、かたいのが混じる。ノゲシの黄色い花。オオバンが水面をつつきながら北上。

Saさんが双眼鏡でアシ原の方を見ていたので、「何かいました?」と声をかけると「ゴイサギの若いのがいる」と。見るとアシの下の水面にアシにくっつくように立つ。その右のくいの上に大きめのカメが甲ら干し。もう冬眠から覚めた? カイツブリの鳴き声がきこえる。

アオサギが飛んで弁天堂の屋台店の向こうへ降りていく。もう 1 羽、ハスの葉柄群の手前にいる。その北にダイサギが脚をすっぽり水の中に入れて、立つ。オオバン 1 羽、ユリカモメ数羽、

泳ぐ。

キクモモは枯枝のまま。大漁桜の蕾はまだかたい。が、実が1個なっている。HAさん「赤くてつやつやしてる」と。柄の先っぽに1粒がピンと立っている。11月10日に「枝先に2〜3輪ずつ4個所に見えた」花の結果か？

駅伝の碑の南に不思議なオレンジ色の平べったい箱。チェックボックス37と書いてある。2個所に穴があいていて、1つの穴の周囲には水色にコーティングされたヒマワリのタネらしき物が多数まかされている。穴の中にもそのタネがあるのうかがえる。何の為の何なのか？？



何だ、これは？ 不思議な箱

弁天堂入口手前、紅い花の大きな葉のカタバミ。先月聞こえたトイレの「音姫」音のような流水の人工音は無い。参道北の弁天池に、さっき降りるのが見えたアオサギが蓮の葉柄群の中で首を伸ばして周囲と一体化して見える。

橋手前の北、屋台店の後に紅色のしだれ梅が咲き始めた。手洗いの東に紅いしだれ梅、西に白いしだれ梅が咲く。メジロが飛ぶ。

大藤棚に着くとすぐ SAさんが「ツグミがいる」と。「アシ原から飛んできて止まった」と。見ると木の上にはいたが、すぐ飛んで行ってしまった。先ほど歩きながら SAさんから「今年はツグミを見たか？」ときかれ「NO」と答えると、「今年はツグミが少ないみたい」と話をきいたばかり。

カイツブリが大きな鳴き声をあげて泳ぐ。ホトケノザの花。ジュズダマは全部薄茶色の枯れ葉のかたまり。ユッカは1本、白い花が首をたれ、赤いガクが目立つ。8本は枯枝状態。柿は上の方にガクだけ残っていたり、小さな干柿状態で残っていたり。ある方が「ムクドリ、ヒヨドリが干し柿になるのを待って食べに来てると教えてくれる。「前はスズメやメジロも来ていたが、あの雑な食べ方はムクドリ」とも言っていた。

弁天堂裏でハクセキレイの鳴き声がかして、北へ飛んで行く。カワウの島を見ると、カワウが極端に少ない。鳴き声もきこえない。擬木の白さが目立つ。何かあった？単に巣立ち？

落羽松の葉はまだ少し残っているが、ほぼ落ちて、実だけがぶら下がる。枝先に大きな毛玉みたいなのが幾つも付いているが、何？下には小さい笹とノゲシの黄色い花と白い綿毛。

動物園の中の木のてっぺんに鳥。茶色の背、首をまわした時に一瞬顔が見えるが何？あとで潔が調べてチョウゲンボウかも知れないと。

ボート池北を水鳥を見ながら西方面へ。動物園の塀の下に白い花。潔、「カタバミ」と。園芸品種の割と大きい花、葉のカタバミ。

朝は見られなかったセグロカモメが1羽。泳いでベンチ近くへ。見ると餌をやっている2人。セグロカモメも餌付けされてしまったのか？食べている。そこへ小さなザックをしょった女性2人。鳥の名をきかれて答える。で、1人の方が「餌をやっている！」と。私もつい、大きな声で「餌をやらないでと書いてあるのに！添加物の入った人工物をやると本当は野鳥には迷惑なのに」

と。するとベンチの2人組は一時いなくなるが、またあとで戻って来ていた。

ハンノキの南では別の2人が多量に餌をまく。ユリカモメが鳴きながら群がる。かの女性と、「本当に困りものですねえ」と話す。こういう時はどうするのが良いのかいつも悩む。

いつものテラスへの途中で、小さい葉群の中に小さい白い花。朝には気づかなかった、白いコゴメイヌノフグリ。



餌を待つセグロカモメ



手前の白花:コゴメイヌノフグリ
後ろの青花:オオイヌノフグリ

国内象牙市場閉鎖を求める請願署名にご協力を！

アフリカの野生のゾウを守るため、国内象牙市場閉鎖を求める請願署名集めが始まりました。2026年に希少生物を守るための国内法(種の保存法)が見直されるのを前に、野生のゾウの保護に取り組む団体と国際的に自然保護活動を行う若者たちのグループの計4団体が呼びかけて、国内の象牙市場閉鎖を法的に実現することを盛り込むよう、国会請願をすることになりました。

野生のゾウは、主として人間による象牙入手のため、密猟による殺戮が繰り返されてきました。絶滅に瀕する野生生物の国際商取引を規制するワシントン条約では、ゾウは1990年から保護対象ですが、たびたび密猟や、時限的輸出入許可により、アフリカでは個体数が半減しています。ゾウの狩猟許可や密猟の圧力は、象牙が高い値段で取引できるからです。日本は象牙の輸入大国になってきました。つまり、日本の消費需要がアフリカのゾウの脅威になってきたのです。

2016年の国際会議で各国への国内象牙市場閉鎖勧告があり、国内の象牙市場を閉鎖する国が相次ぐ中、日本は「過去の輸入品の国内流通をはかっているだけだから、今の日本は国際取引には無関係だ」として、国内での象牙市場を温存してきました。ところが2010年代の中国での有罪判決を受けた密輸件数の事例をはじめ、密輸品として押収された象牙の多くに日本が関係することが判明しました。日本の国内市場が密猟の発信・中継地となっていたわけです。

署名は日本の種の保存法改訂に反映されるよう、国会請願の形で提出します。今年は参議院議員選挙が予定されているので、衆議院に提出される予定です。

請願署名にはいくつかのルールがあります。自筆であること、氏名や住所を、同上とか〳〵とかではなくフルの名前・住所を書くこと、署名用紙はコピーしていただいて構いませんが、署名したものはコピーでは無効なので、必ず原本を下記トラ・ゾウ保護基金までお送りください。日本に在住している方であれば、国籍は問いません。署名欄がすべて埋まらないものでも有効です。署名用紙を同封しますので、ご協力をお願いします。

返送先: 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3 階

認定 NPO 法人トラ・ゾウ保護基金 国内象牙市場閉鎖に関する請願実行委員会 宛

参考サイト

[国内象牙市場閉鎖に関する請願署名キャンペーン - Japan Tiger Elephant Organization \(https://www.jtef.jp/news/seigancampaign2025/\)](https://www.jtef.jp/news/seigancampaign2025/)

しのばず自然観察会50年史関係の途中報告

2月の観察会(月例会)では、1月に提案があった表紙図案—タブの木の画像—をあしらった試案を検討しました。その場の意見では、新旧のタブの木を両方入れると、表紙としての迫力に欠ける、古い方の写真は本文のどこかに入れてはどうかという提案がありました。



左:現存のタブの大木

中:1985年の五条天神協のタブの木(中央)、今では頂上がカットされ、周りの樹木に覆われている 1985年の同じ画角のカラー写真もある

右:両方の画像を表紙に入れた場合の一例 画像が小さくなる。

☆なお、タイトル名や、文字の字体は仮です。